



令和6年能登半島地震からの復興に向け トヨタ自動車(株)と連携協定締結



1月16日(木)、町はトヨタ自動車(株)と「令和6年能登半島地震対応における共働を起点とする連携協定」を締結しました。式では、稲岡町長とトヨタ自動車(株)総務・人事本部の松山洋司副本部長が協定書に署名しました。

トヨタ自動車(株)は、震災の発生直後から、町に水タンクの供与や車両の貸与をはじめ、避難所への物資配送オペレーションの構築や、り災証明のための家屋調査、復興コンサートの開催などの支援をしてきました。

また、昨年11月には、トヨタの各工場の防災担当者が町を訪れ、地震直後の状況や対応を伝える研修会を開催。トヨタの社内駅伝大会の会場で、志賀町の特産品紹介ブースを出展するなどの交流を行っています。

今後も、こうした交流を深める中で、震災で得た経験と学びを互いに共有し、防災力の向上と相互の発展につなげていきます。

J A志賀が「能登志賀ころ柿」1,200個を贈呈 学校給食で故郷の特産品を味わって



1月15日(水)、J A志賀は、町特産の干し柿「能登志賀ころ柿」1,200個を町教育委員会に贈呈し、J A志賀の新谷克己組合長が間嶋教育長にころ柿を手渡しました。

ころ柿部会の吉野成明部会長は「前は震災直後で贈れず2年振りの贈呈。昨年は異常気象もあり、生産量が例年の半分になったが、地元の子もたちに故郷の味を感じて、復興に向けて元気に頑張ってもらいたい」と話しました。

翌日、町内の学校給食でデザートとして提供され、児童生徒らは「甘くて美味しい」と笑顔で頬張っていました。



太陽光発電設備導入で脱炭素化を推進 シグマ光機(株)が増築工場棟の開所式



12月19日(木)、光学機器メーカーのシグマ光機(株)(埼玉県日高市)は、若葉台の能登工場で、稼働を延期していた増築工場棟の開所式を行いました。増設に併せ、既存棟屋根に太陽光発電設備を導入。能登中核工業団地では初となる「オンサイトPPA」により太陽光パネルを設置し、工場の脱炭素化を推進します。

増築工場棟は延べ床面積1276.45㎡で、総投資額は約6億6千万円。従来からの光学基本機器に加え、新たにミラーや対物レンズなどのモジュール製品などを生産します。昨年4月に稼働予定でしたが、震災で既存棟を含めた天井や床などが被害に合い、修繕を行って昨年10月に操業を始めました。

開所式では、針原三徳工場長が「地域の発展に向け、地域貢献と雇用創出に取り組んでいきたい」とあいさつ。稲岡町長らが祝辞を述べました。

※オンサイトPPA(オンサイトパワーパフォーマンスアグリーメント)とは、企業や自治体が自社敷地内に太陽光発電設備を設置し、発電した電力を利用する仕組みです。発電事業者が設備の設置や維持管理を行うため、企業は初期投資やメンテナンス費用を負担せずに済みます。

関係者が志賀営業所の完成を祝う (株)菅原が志賀営業所の新築工事竣工式



1月17日(金)、発電所設備の保守整備などを行う(株)菅原(福岡県北九州市)は、若葉台の能登中核工業団地で、新築した志賀営業所の竣工式を行いました。

同社は1997年に、志賀原子力発電所内に営業所を開設。志賀原発の設備保守などに携わっています。新営業所は鉄骨造の2階建てで、延べ床面積430㎡。最大20人程度の事務所規模です。

池田宏之志賀営業所長は「所員、新しい気持ちで仕事をしていきたい」と述べ、同社の役員のほか、稲岡健太郎町長、石田章県議らが出席し、完成を祝いました。





豊かな人権感覚の育成

全国中学生人権作文コンテスト表彰



12月20日(金)、志賀町役場で全国中学生人権作文コンテスト石川県大会の表彰伝達式があり、町内中学生4人が表彰されました。若林敬洋金沢地方務局七尾支局長と間嶋正剛志賀町教育長の祝辞の後、受賞者代表して、村田彩月さん(志賀中1年)が謝辞を述べました。

●【石川県大会】

- ・優秀賞：村田 彩月(志賀中1年)
- ・入選：南 陽那菜(富来中1年)

●【七尾地区審査会】

金沢地方務局七尾支局長・七尾人権擁護委員協議会長賞
藤澤 玖仁歌(志賀中1年) / 竹澤 陽彩(富来中1年)

寄贈は今年で16回目

(株)TSGが日めくりカレンダーなどを寄贈



12月20日(金)、能登中核工業団地でカレンダーを製造する(株)TSGが、志賀町にカレンダーを寄贈しました。寄贈は今年で16回目。毎年、町内の保育園・学校や福祉施設などに配り、喜ばれています。

カレンダーには、ころ柿や世界一長いベンチ、旧福浦灯台などの写真をカラー印刷し、「志賀町ですよ。」の文字や復興に向け「能登のために」のロゴが添えられています。富来小学校では、児童が日めくりカレンダーを手に取り「写真がきれい」「かわいい」と喜んでいました。

(株)TSGは日本の日めくりカレンダーの約4割を製造し、国内シェア1位となっています。

いつまでもお元気でお過ごしください

鹿頭の出家幸子さんが100歳



自宅で祝状や花束を受け取り、笑顔の幸子さん

鹿頭の出家幸子さんが12月15日(日)に100歳を迎えました。幸子さんは、自宅で祝状や花束を受け取ると「今日は本当にありがとう」と笑顔で応えました。

長男の寛さんは「母はとても働き者で、若い時から父と一緒に田んぼや畑に精を出し、趣味も畑のため、今でも母は玄関から外を見ては天気になるのを待っている。そんな母だから畑に行けば歩くスピードも早く、ちゃっちゃと歩き、周りをびっくりさせている。母の長生きの秘訣は、自分でできることは全て自分でし、好きなものを季節を問わず自由に食べ、マイペースに過ごすことだ」と話しました。

仏木の石田うめのさんが100歳



自宅で稲岡町長や家族から祝福を受けるうめのさん

仏木の石田うめのさんが1月14日(火)に100歳を迎えました。稲岡町長からお祝いの言葉がかけられました。

長男の哲治さんは「母は折り紙で千羽鶴やくす玉をはじめ、押絵などを作るのが好きで、95歳までは近所の人たちと一緒にシルバーハウスやフローリィに行き、色々な物を作っていた。終戦前には1年間ほど満州へ行く兄について行くほど、好奇心旺盛な人だった。満州では広大な土地を牛に犁を引かせ、田起こしをして米を作っていたと、時折話してくれた。小さな体でよく働き、よく頑張った人だ」と話しました。



うめのさんの作品